

| 第1部 |

計画の前提



第1章 計画策定にあたって

第2章 羽村市の産業の現状と課題

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

市では、平成15年3月策定の「羽村市産業振興計画・商業振興計画 しあわせを実感できる産業都市—羽村のランドデザイン」及び平成13年4月策定の「羽村市農業振興計画」に基づき、市内産業の活性化のため、様々な施策に取り組み、一定の成果を上げてきました。

一方、これらの計画策定以降も、羽村市及び我が国を取り巻く社会経済情勢は大きく変化を続けており、その趨勢とともに、昨今では、新たな課題やニーズも顕在化してきています。

こうした市内の産業を取り巻く環境や構造が大きく変化をしている今、改めて市の特性や強み、現状、課題を整理し、この先に進むべき将来像や方向性、求められる施策を、事業者や産業関係団体、市民、行政がともに考え、共有し、時代の変化に対応した実効性のある取り組みを実現するため、今回新たに産業振興計画を策定するものです。

今回策定する産業振興計画は、これまで工業・商業・農業・観光の各分野に分けて策定していた計画を、全分野を合わせた一体的な計画に体系づけるものであり、市内産業全体の目指す方向性、さらに工業・商業・農業・観光それぞれが目指す方向性を定め、各産業分野において活性化に向けた各種施策を推進するとともに、各産業分野が横断的に連携することによって、相乗的に市内産業全体が発展することを目指します。



2 計画の位置づけ

産業振興計画は、市の中長期的な産業の活性化策を示すものであり、産業振興に関する基本的な考え方は、本市の最上位計画である「第五次羽村市長期総合計画」（平成24年3月策定）の基本目標の一つである「ふれあいと活力のあふれるまち」に基づいています。

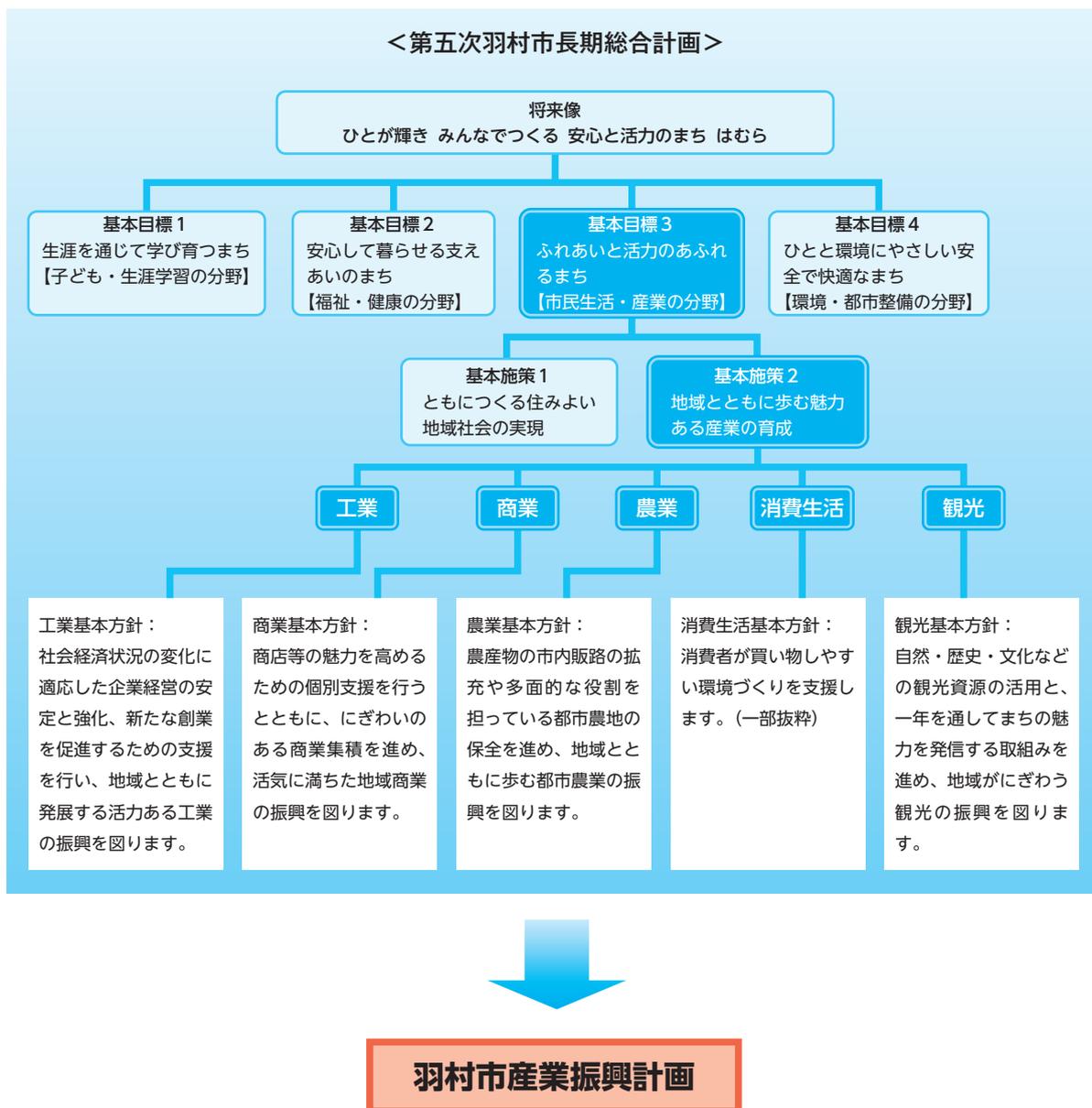
また、計画の策定にあたっては、国や東京都の産業振興に向けた取り組みに留意するとともに、「都市計画マスタープラン」等の市の関連計画との整合性も図っています。



(1) 第五次羽村市長期総合計画との関係

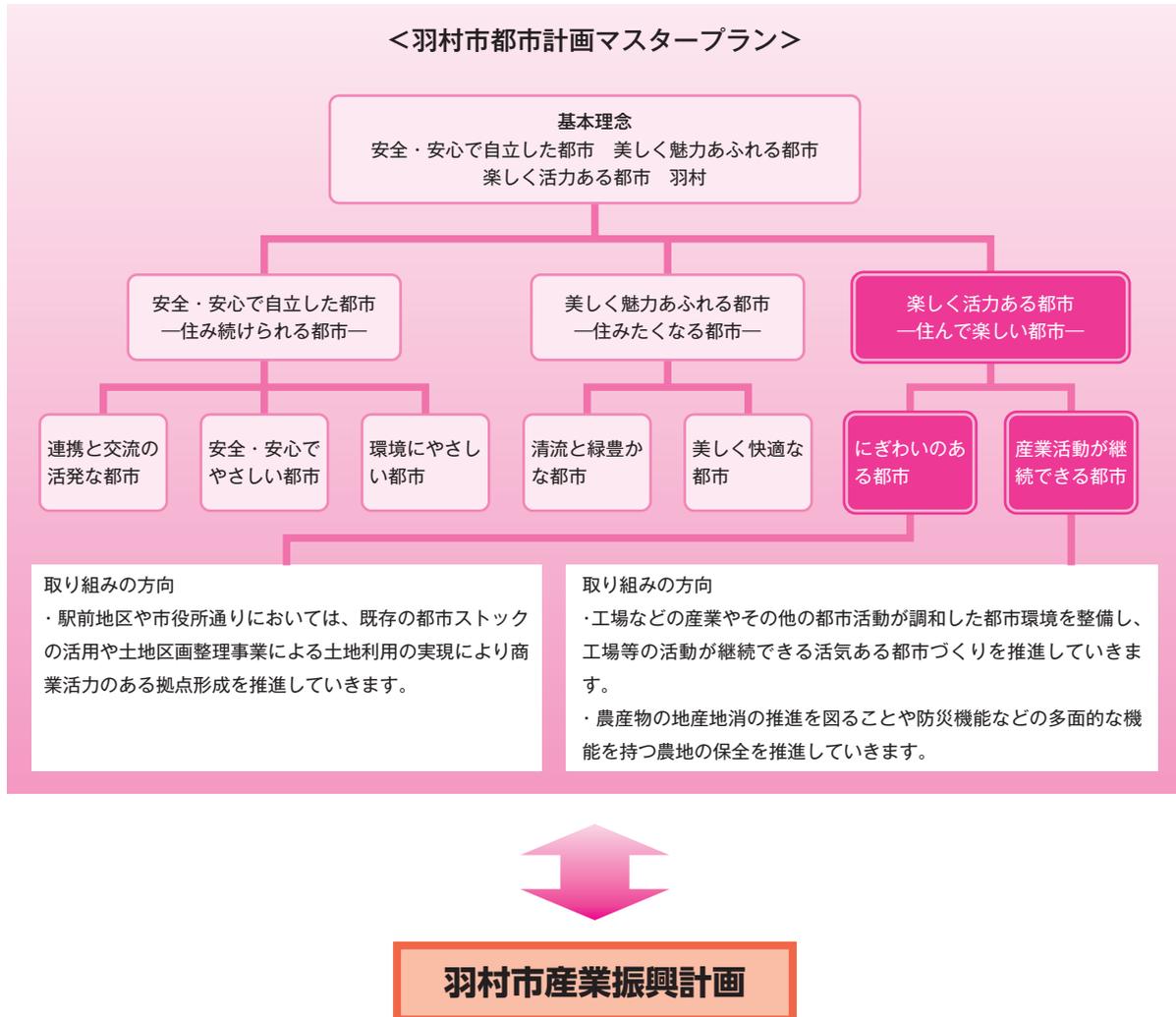
「第五次羽村市長期総合計画」では、市の将来像を「ひとが輝き みんなでつくる 安心と活力のまち はむら」とし、その実現に向けて4つの基本目標を施策の大綱の柱として、それぞれの分野で施策を展開しています。

産業振興計画では、第五次長期総合計画に定めた基本目標のうち、産業分野と関係の深い、基本目標3「ふれあいと活力のあるまち」、さらにその中の基本施策2「地域とともに歩む魅力ある産業の育成」を実現するための産業振興を目指します。



(2) 羽村市都市計画マスタープランとの関係

産業振興計画は、関連計画である「羽村市都市計画マスタープラン」との整合を図り、都市づくりの基本理念である「安全・安心で自立した都市、美しく魅力あふれる都市、楽しく活力ある都市羽村」に向けた土地利用や都市環境整備、景観形成等と産業の活性化を結びつけます。



(3) その他の計画との関係

その他の計画についても、以下に掲げる事項等との整合を図ります。

生涯学習基本計画

<就職支援の充実>

商工会やハローワーク、青梅線沿線地域産業クラスター協議会等と連携・協力し、職業体験や就職説明会等の就職支援や起業に向けた講座の開催、求人情報の提供を行うことで、就職や生き方を考えることのできる機会を創出します。

<市内産業等に関する学習機会の充実>

市内商業、工業、農業等の課題に対応するために必要な知識・技能を学習する機会の充実を図ります。

<農業に関する体験学習機会の充実>

自然に触れながら作物を育てる喜びや食への関心を高められるよう、農業に関する知識や技術を習得し、活かすことができる機会を充実します。

環境とみどりの基本計画

<都市農地の保全>

市民等・事業者等・市は、連携・協力して、都市農地の保全のため、生産緑地の追加指定やより一層の地産地消を進め、農業振興支援を推進することにより、総合的に都市農地を保全します。また、減農薬や有機栽培、落ち葉などの堆肥化等による循環型の環境保全型農業の推進を図っていきます。

<田園によるみどりの保全>

市民等・事業者等・市は、連携・協力して、市内における貴重な田園によるみどりを保全するため、援農、観光への活用、稲作体験の推進、生産緑地の追加指定や一層の地産地消を進め、農業振興支援を推進します。

まち・ひと・しごと創生計画

<施策の方向性>

- 1 若者が流出している「人の流れ」を変え、人口流出を抑制する
- 2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、出生者数の増加につなげる
- 3 中心市街地の活性化のため、「選択と集中」の考えを徹底し、投資と施策を集中することで地域に活力を生み出す
- 4 羽村市の魅力を効果的に発信することで認知度を向上させ、来訪者の増加につなげる

3 計画期間

産業振興計画の計画期間は、上位計画である第五次羽村市長期総合計画の基本構想及び基本計画との整合性を踏まえ、平成28年度から平成33年度までの6年間とします。

なお、市を取り巻く社会経済情勢の変化やそれまでの施策の進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画内容の見直しを行います。

	～	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
第五次 長期総合計画		基本構想					
		前期基本計画	後期基本計画				
産業振興計画		産業振興計画					

4 これまでの羽村市の産業振興施策

市は、「羽村市産業振興計画・商業振興計画」（平成15年3月策定）及び「羽村市農業振興計画」（平成13年4月策定）で掲げた施策を中心に、市の産業振興に関する支援を行ってきました。産業振興計画の策定にあたり、これまでの施策の実績・成果をまとめました。

(1) 産業振興計画・商業振興計画、農業振興計画の主な成果

①工業に係る主な成果

企業活動支援のため、中小企業診断士等の資格を持った企業活動支援員を配置（平成15年度～）

企業による様々な相談ごとへの対応、経営診断、各種支援策の展開、国・都補助金の紹介及び申請支援などワンストップで対応できる体制を整備し、企業活動支援の強化・徹底を図った。

- ・訪問回数：工業系事業所7,219回（平成15～26年度実績 延べ）

「企業誘致促進制度」創設（平成16年度～）

市外企業等の転入用地・転入工場等について調査及び情報提供を実施。

平成16年度に企業誘致促進制度を創設。新規創業・転入により、市内の工業系指定地域で新たに事業を始めた事業所に対し、固定資産税・都市計画税相当額を3年間交付。平成27年3月には制度を改正し、指定地域、対象要件を拡大した。

- ・誘致実績：9社（平成16～26年度累計）

「中小企業技術力向上及び人材育成支援制度」創設（平成16年度～）

市内製造業の技術力向上及び人材育成支援のため、企業・事業所が負担した従業員等に対する講習会、研修の受講、資格取得などに要した経費を助成。

- ・支援実績：94社（受講・資格取得者641人 平成16～26年度実績 延べ）

「中小企業販路開拓支援事業」創設（平成23年度～）

市内中小企業が展示会や見本市へ出展する際の費用、パンフレット等作成費や運搬経費などを助成。

- ・支援実績：42社（平成23～26年度実績 延べ）

②商業に係る主な成果

企業活動支援のため、中小企業診断士等の資格を持った企業活動支援員を配置（平成16年度～）

※商業系事業所は平成16年度から訪問を開始

- ・訪問回数：商業系事業所5,470回（平成16～26年度実績 延べ）

共同販促活動への取り組み

市全体を通じた共同販促活動として、平成20年度から第8弾に渡り「はむらにぎわい商品券」を販売。市内全体で毎回500店舗近い事業者が参加し、商品券をツールにして共同販促活動の取り組みが進められた。

また、姉妹都市北杜市との産業交流プロジェクトとして「羽～杜（は～と）プロジェクト」を推進。統一したロゴマークのもと、オリジナル商品開発や、販促が図られている。

この他、市の公式キャラクター「はむりん」を活用した商品開発や、飲食店を中心にした「はむらモヒート」の展開、「まちコン」の開催などにより事業者間での連携、共同での販促が進んでいる。

事業者の連携と協働

市内各商店会において、それぞれ事業者の連携・協働が進み、商店会ごとに独自に趣向をこらしたイベントが開催されている。一例として、マミーショッピングセンター商店会においては、産・学・官・金（金融機関）の連携による活性化イベントの取り組みが評価され、東京都の商店街グランプリの優秀賞、奨励賞をダブルで受賞するなど成果が現れている。

イベントのパワーアップ

毎年恒例のはむら夏まつりでは、羽村駅西口や東口福生方面にも会場を広げにぎわいの拡大を図る取り組みを進めたほか、東口商店会の夏まつりと同時開催するなど、毎年パワーアップし、趣向をこらした取り組みを進めている。

また、夏まつりの実施にあたっては会場（サンバ）部会を商工会青年部と協働して企画・運営するなど、事業者間での交流、協働が図られている。

- ・来場者数：平成26年度・20万人（平成15年度 [計画初年度]・16万5,000人）

③観光に係る主な成果

観光協会機能の強化・観光推進体制の整備

観光協会事務局長については、従来、商工会事務局長が兼務をしていたが、組織及び体制の強化を図ることを目的として、事務局長を専従制にし、観光協会機能の強化を図った。また、観光協会内に協力員制度を創設し、観光推進体制の整備を進めた。

- ・協力員数：26人（平成27年10月現在）

観光案内所の設置

玉川上水や羽村堰への玄関口となる本町西口商店会区域内に、「はむら花と水のまつり」期間中に観光案内所を設置。市外からの来客に市の観光情報を積極的に発信する拠点として活用するとともに、同施設は市内商店の逸品を集めたマルシェの開催や、商業協同組合が15日市を開催するなど、まちのにぎわいの創出の場としても活用を図った。

- ・来所者数：7,115人（平成26年 3/27～5/31）

④農業に係る主な成果

新農産物直売所の整備・運営

平成14年3月、羽加美一丁目（スポーツセンター横）に新農産物直売所を設置し、市内農産物の安定的な販売経路・拠点の整備を行った。平成17年度からは農業者で組織する直売所運営委員会が指定管理者となり販売体制の強化が図られるとともに、POSシステムの導入などにより、効率的生産供給体制の強化が進められた。

- ・売上金額：約15億円 来客者数：約182万人（平成14～26年度実績）

農地の保全

都市の貴重な緑地空間である農地を保全するため、生産緑地地区の追加指定を実施。

また、農地の多面的利用を促進する観点から、平成20年9月1日、羽村市農業団体協議会と「災害時における農産物等の供給及び農地の使用に関する協定」を締結。災害発生時において農地を避難スペースとして活用できる体制を整えた。

- ・生産緑地追加指定：35件、28,433㎡（平成17～27年度実績）

農業に対する理解の促進

農家と市民との協力体制づくりの支援として、援農ボランティア制度を開始。農業体験をしたい市民と生産拡大や家族労働の不足に対応したい農業者の双方にとって有効なシステムとして機能している。

また、農業者が園主となり市民に農業知識を習得してもらうための農園である「農業体験農園」を平成20年3月に開園し、農家と市民との交流が深まる場として機能している。

- ・ボランティア登録人数：79人（平成27年3月31日現在）
- ・農業体験農園：1園50区画

第2章 羽村市の産業の現状と課題

1 羽村市の産業を取り巻く状況

(1) 国内の社会経済状況

平成20年9月のリーマン・ショックに端を発する世界経済危機により大幅に落ち込んでいた日本経済は、平成21年から持ち直しの動きを見せていたものの、平成23年3月に発生した東日本大震災や、同年夏以降に欧州政府債務危機がリスク要因として一層認識されるようになったこと、また、同年10月のタイでの洪水被害によるサプライチェーンの寸断等、内外における様々なショックに見舞われ続けました。しかし、こうした状況も、平成25年に入って、大胆な金融政策と機動的な財政政策の実施により、家計や企業マインドに回復が進み、国内景気は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きを見せるようになりました。企業収益もリーマン・ショック前の水準まで回復し、賃金上昇や雇用拡大にもつながる状況が見られました。こうした中、平成26年4月には、17年ぶりに消費税率が引き上げられ、引上げに伴う駆け込み需要及びその反動が見られました。その後、景気は緩やかに回復基調が続いているものの、地域経済を底上げするほどの力強い回復には未だ至っていません。

今後、平成32年（2020年）には、東京を開催地としてオリンピック・パラリンピックが開催されることが決定しており、本市を含む多摩地域においても、その経済波及効果が期待されます。

(2) 国の政策の状況

国の産業施策としては、平成25年6月に新たな成長戦略「日本再興戦略 -JAPAN is BACK-」が閣議決定され、そのアクションプランの一つとして、産業の新陳代謝の促進のほか、人材力強化や雇用制度改革、中小企業・小規模事業者の革新を進めるための「日本産業再興プラン」が掲げられました。グローバル競争に勝ち抜ける製造業の復活、付加価値の高いサービス産業の創出を図るとともに、企業が活動しやすく、個人の可能性が最大限発揮される社会を実現するとしています。「日本再興戦略」は、平成26年6月、次いで平成27年6月に改訂が行われました。「『日本再興戦略』改訂2015」は、これまでのデフレ脱却に向けた需要不足の解消から、人口減少下での供給制約の克服に政策の力点を移したものとなっています。

一方、地方自治制度と国の施策の関連として、平成26年11月、人口減少克服や地域経済活性化の基本理念を示した「まち・ひと・しごと創生法」と、地域の活性化に取り組む地方自治体を国が一体的に支援する「改正地域再生法」の地方創生関連2法案が成立しました。これにより、地方自治体は、それぞれ地域の実情に応じた自主的な施策を策定し、実施する責務を有することとされ、これまで以上に、自ら考え、責任を持って地域の課題に取り組むことが重要となっています。

(3) 東京都の政策の状況

東京都においては、都政運営の新たな指針として、平成26年12月に新たな長期ビジョンである「東京都長期ビジョン ～『世界一の都市・東京』の実現を目指して～」を策定しています。

産業振興の面では、「東京都産業振興基本戦略」（平成19年3月）を改定し、平成24年3月に「東京都産業振興基本戦略（2011-2020）」が策定されました。東京都における平成32年度までの産業振興の基本的考えと施策の方向についてとりまとめたもので、新たな成長機会の取り込み、経営基盤の強化等の5つの戦略を掲げています。今後の成長とイノベーションが期待される産業分野の重点的な育成や中小企業の活力向上、産業集積の維持・発展等により、東京の産業力を高め、新たな成長に乗せることを目指しています。

また、本市を含む多摩地域に対する取り組みとして、平成25年3月に多摩振興の基本構想となる「新たな多摩のビジョン」を策定し、翌26年3月にはビジョンで示した多摩の姿を実現するための行動戦略を策定しました。この中で、多摩地域における産業振興に係る戦略的な取り組みとして、「高付加価値を生み出す企業活動の促進」と「地域資源を活かした産業の活性化」の2つの方向性を示し、この方向性のもと、「産業集積の強みを活かしたイノベーションの創出」「地域の特性を踏まえた雇用・就業の推進」「地域の特性を踏まえた観光の振興」「農林水産物の付加価値を高め、地産地消を促進」といった戦略に取り組んでいくこととしています。

2 羽村市の概況

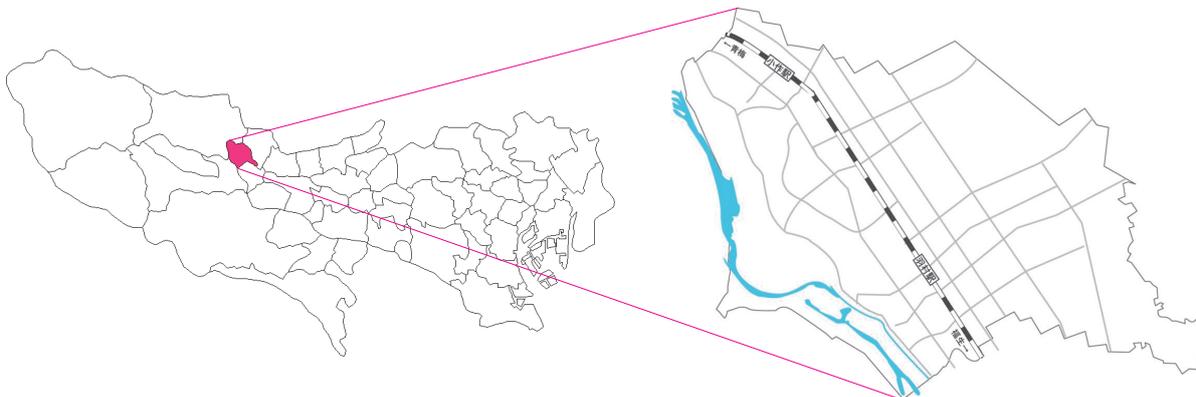
(1) 位置・面積

羽村市は東京都心部から西に約45kmに位置し、市域は東西4.23km、南北3.27km、面積は9.90km²です。北と西は青梅市、東は西多摩郡瑞穂町、南は福生市、あきる野市と接しています。

羽村市には、行政区域内に米軍横田基地が所在しており、基地用地は0.417km²で市域の4.2%を占めています。また、市内最大の事業所である日野自動車(株)羽村工場の敷地面積は0.751km²（日野自動車(株)環境サイトデータより）で、市域の7.6%を占めています。

市の西から南へ多摩川が流れており、その流れが形作った河岸段丘があります。段丘をつなぐ崖線は「ハケ」と呼ばれ、市の地形の特徴となっています。

●羽村市位置図●



(2) 人口

①人口

平成27年1月1日時点の羽村市の人口（日本人）は55,429人です。年齢3区分による人口の推移を見ると、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）とも減少傾向にあります。これに対して、老年人口（65歳以上）は増加を続けており、20年間で3倍近い人数となっています。今後も少子高齢化はさらに進行すると考えられます。

②昼夜間人口

平成22年の羽村市の昼間人口（従業地・通学地による人口）は53,221人です。夜間人口は57,032人、流入人口は15,043人、流出人口は18,854人で、3,811人の流出超過となっています。

昼夜間人口比率は93.3となっています。昼夜間人口比率は、夜間人口100人あたりの昼間人口の割合であり、100を超えているときは人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示しています。羽村市は100を下回る流出超過の状況が続いています。

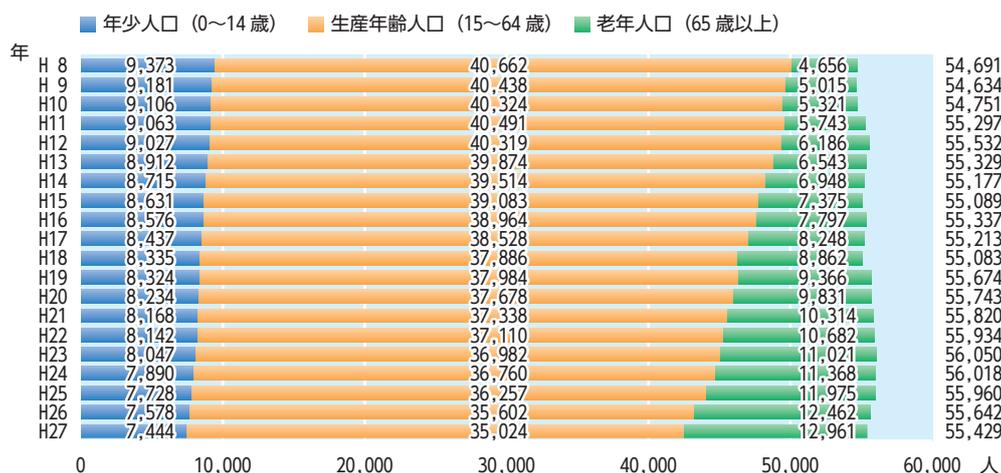
他の自治体の状況を見ると、多摩地域26市の中で、昼夜間人口比率が100を上回っているのは立川市、武蔵野市のみです。羽村市は7番目に比率が高く、かつ100に近い値となっています。昼間人口と夜間人口の差が小さく、比較的、居住地と通勤地・通学地としてのバランスが取れていると言えます。

③産業別人口

羽村市は、都市基盤整備に合わせ、早くから工業誘致に努めてきたことから、第2次産業就業者数の比率が平成22年で30.4%と、東京都の15.2%や多摩地域26市の17.4%と比較して高くなっています。

推移を見ると、次第に第2次産業就業者数の比率が低下し、第3次産業就業者の比率は上昇しています。

● 年齢3区分別人口の推移 ●



資料：東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」各年1月1日現在
 ※法改正により平成24年7月から外国人が住民基本台帳法の適用対象となっているが、経年比較を容易にするため、平成25年以降も日本人のみの数値としている。

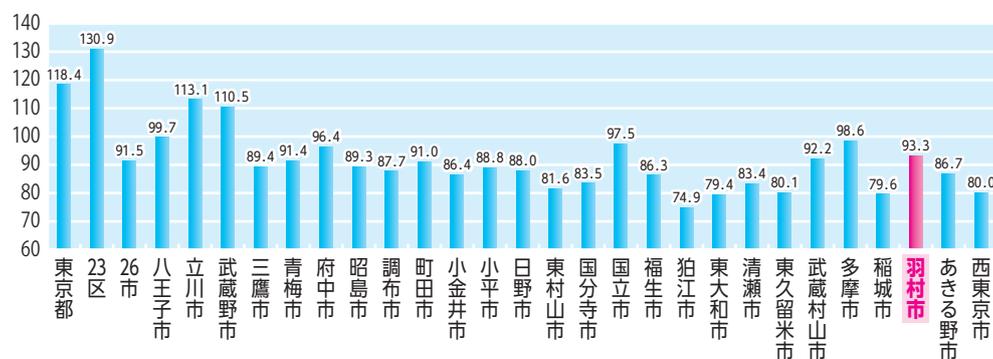
● 流入・流出人口の推移 ●

(単位：人)

年	流入人口			流出人口			流入超過人口 (△は流出超過)		
	総数	通勤者	通学者	総数	通勤者	通学者	総数	通勤者	通学者
H7	19,209	18,091	1,118	21,690	18,395	3,295	△2,481	△304	△2,177
H12	18,739	17,791	948	20,563	17,903	2,660	△1,824	△112	△1,712
H17	19,254	18,392	862	19,740	17,293	2,447	△486	1,099	△1,585
H22	15,043	14,348	695	18,854	16,516	2,338	△3,811	△2,168	△1,643

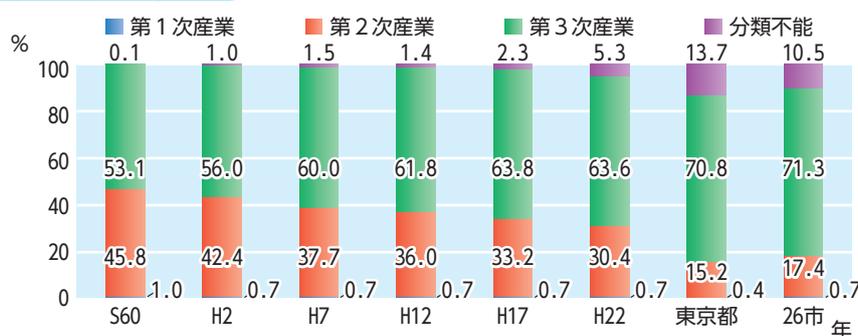
資料：国勢調査

● 昼夜間人口比率の比較 ●



資料：国勢調査 (平成22年)

● 産業分類別就業者数構成比 ●



資料：国勢調査

(3) 事業所数

平成26年の羽村市の事業所数は2,045事業所です。推移を見るとやや減少傾向にあり、平成13年の2,307事業所と比較して、262事業所(△11.4%)の減少となっています。

平成26年の産業分類別の事業所数は、「卸売業、小売業」が421事業所、20.6%を占めており、続いて「宿泊業、飲食サービス業」が407事業所、19.9%となっています。

平成13年と比較すると、262事業所(△11.4%)減少しています。「製造業」が59事業所(△28.1%)、「卸売業、小売業」が156事業所(△27.0%)、「宿泊業、飲食サービス業」が107事業所(△20.8%)減少するなど、多くの産業分類で事業所が減少する中、「医療、福祉」は73事業所(69.5%)増加しています。

● 産業分類別事業所数の推移 ●

(単位：%)

産業(大分類)	H13		H18		H21		H24		H26	
	事業所数	構成比								
農業、林業	-	-	1	0.0	1	0.0	1	0.1	1	0.0
建設業	212	9.2	199	9.2	194	8.9	174	8.8	170	8.3
製造業	210	9.1	170	7.9	175	8.0	150	7.5	151	7.4
電気・ガス・熱供給・水道業	1	0.0	2	0.1	3	0.1	3	0.2	10	0.5
情報通信業	18	0.8	17	0.8	25	1.1	19	1.0	15	0.7
運輸業、郵便業	46	2.0	42	1.9	48	2.2	43	2.2	47	2.3
卸売業、小売業	577	25.0	523	24.3	486	22.3	437	22.0	421	20.6
金融業、保険業	23	1.0	19	0.9	20	0.9	19	1.0	24	1.2
不動産業、物品賃貸業	103	4.5	106	4.9	145	6.7	139	7.0	131	6.4
学術研究、専門・技術サービス業					79	3.6	65	3.3	69	3.4
宿泊業、飲食サービス業	514	22.3	450	20.9	430	19.8	395	19.9	407	19.9
生活関連サービス業、娯楽業					205	9.4	193	9.7	203	9.9
教育、学習支援業	98	4.2	101	4.7	99	4.6	89	4.5	104	5.1
医療、福祉	105	4.6	134	6.2	148	6.8	142	7.1	178	8.7
複合サービス事業	5	0.2	12	0.6	8	0.4	6	0.3	7	0.3
サービス業(他に分類されないもの)	395	17.1	378	17.5	109	5.0	113	5.7	107	5.2
全産業(公務を除く)	2,307	100.0	2,154	100.0	2,175	100.0	1,988	100.0	2,045	100.0

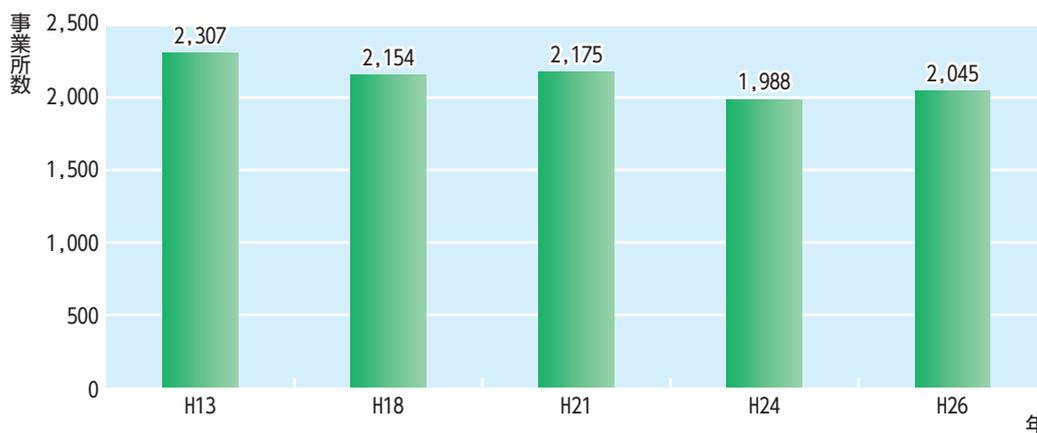
資料：経済センサス(平成26年・24年・21年)、事業所・企業統計調査(平成18年・13年)

(4) 雇用

羽村市、青梅市、福生市、あきる野市、西多摩郡を管轄している青梅公共職業安定所の有効求人倍率を見ると、平成26年度は0.66で、東京都、全国と比較して低い水準となっています。

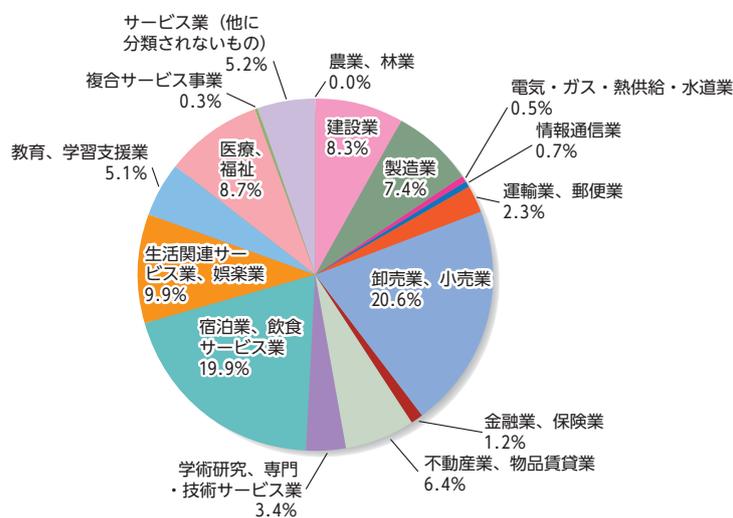
推移を見ると、平成20年秋のリーマン・ショックの影響により大きく低下しており、その後回復してはいますが、1未満の低い水準であり、労働力の供給超過が続いています。依然として厳しい雇用状況と言えます。

● 事業所数の推移 ●



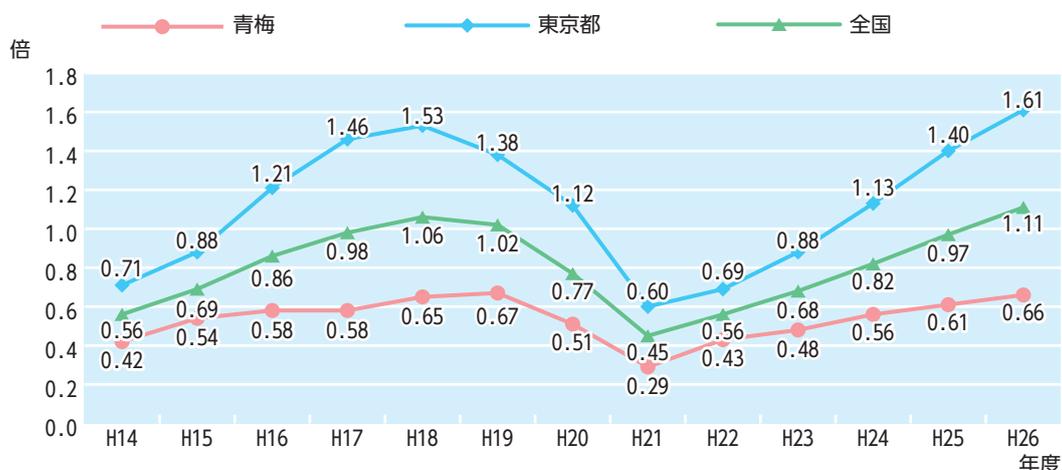
資料：経済センサス（平成26年・24年・21年）、事業所・企業統計調査（平成18年・13年）
 ※事業所・企業統計調査は、平成18年の調査を最後とし、平成21年から経済センサスに統合された。経済センサスは、事業所・企業統計調査とは調査手法が異なるため、単純な比較はできない。

● 産業分類別事業所数構成比 ●



資料：経済センサス（平成26年）

● 有効求人倍率の推移 ●



資料：厚生労働省「一般職業紹介状況（職業安定業務統計）」、青梅公共職業安定所作成資料
 ※新規学卒者を除き、パートタイムを含む。

3 各産業の現状と課題

各種統計データの分析、市内事業者に対する調査・アンケートの実施、関係団体へのヒアリングなどから、市内産業に関する現状のデータ、事業者等の声を整理し、現状認識を行った上で課題を抽出しました。工業・商業・農業・観光の産業分野ごとに現状と課題を示します。

統計データ【現状データ】

- ・経済センサス等各種統計データの分析を実施。
- ・「羽村市産業の現状」としてまとめた。

H26年度

市内事業所実態調査【現状データ・事業者等の声】

- ・産業振興計画の策定に向けて、正確できめ細かなデータを収集するための調査・分析を実施。
- ・市内全事業所対象。有効回答件数 1,144 事業所。

H24年度

商工会アンケート【現状データ・事業者等の声】

- ・現在の市内産業を取り巻く状況等について、基礎データを収集するため、商工会会員事業所の状況や意向などについてアンケートを実施。
- ・商工会会員事業所対象。有効回答件数 105 事業所。

H26年度

農業に対する意識調査【現状データ・事業者等の声】

- ・農業者の農業に対する意識を把握するため、アンケート調査を実施。
- ・市内農家対象。有効回答件数 108 農家。

H24年度

市長と語る 21【事業者等の声】

- ・各種団体を対象に「市長と語る 21」（タウンミーティング）を開催。
- ・農業後継者クラブ、商工会商業部会、商工会環境衛生業部会、工和会の 4 団体と市長が対話を行い、意見や要望等を聞いた。

H25年度

羽村地域産業振興懇談会【支援機関関係者等の声】

- ・羽村市、羽村市商工会、西武信用金庫が発起人となり、中小企業の経営支援を担う機関を構成員とする懇談会を発足。
- ・懇談会において、参加各機関における日ごろの取組事例、企業支援の現場で課題となっている点、現状認識、求められている施策等について意見交換を実施。

H25年度～

関係団体へのヒアリング【事業者等の声】

- ・市産業の将来像や振興に関する課題、要望等を把握するため、関係各団体に対し、ヒアリングを実施。
- ・商工会（商業部会、工業部会、建設業部会、環境衛生業部会、青年部、女性部）、農業団体協議会、西多摩農業協同組合、観光協会、羽村市金融団、一般社団法人首都圏産業活性化協会の 11 団体。

H26年度

課題

(1) 工業

①工業の現状

羽村市では、古くから工業誘致を進めてきた結果、製造業を中心に多数の工場が集積し、操業しており、製造品出荷額等は非常に大きいものとなっています。特に、市内最大の事業所である日野自動車(株)羽村工場の影響により、輸送用機械器具製造業が製造品出荷額等に占める割合が大きくなっています。しかしながら、市内には関連企業が多く集積している状況ではなく、金属製品、生産用機械など様々な業種の製造業が存在し、それぞれ操業を続けています。

羽村市の発展を支えてきた工業ですが、近年、事業所数が減少するとともに、工業系地域内に住宅が建設される事例が増え、操業環境に変化が生じています。

<統計データ>

- ◇ 製造品出荷額等の規模が大きい。(H23年/5,430億4,215万円 東京都4位)
- ◇ 製造業従業者数が多い。(H23年/8,659人 多摩地域26市中6位)
- ◇ 製造業事業所数は減少が続いている。(H12年/179事業所→H23年/122事業所)
- ◇ 製造品出荷額等に占める輸送用機械器具製造業の割合が非常に高い。(製造品出荷額等の86.8%を占める。H25年全国6位)

<市内事業所実態調査> (製造業)

- ◇ 売上高が3期前と比較して減少している事業所(50.4%)、増加している事業所(25.2%)
- ◇ 経常利益が3期前と比較して減少している事業所(51.8%)、増加している事業所(22.8%)
- ◇ 事業を行う上での課題：①売上停滞・減少、②営業力・販路開拓、③利幅の縮小(上位3項目)
- ◇ 後継者の有無：後継者がいない(40.7%)
- ◇ 羽村市の産業施策に関して期待するもの：融資等資金対策(23.6%)

<商工会アンケート>

- ◇ 経営上の問題点：①価格競争の激化、②人材確保が困難、③他社との競争が激しい(上位3項目)
- ◇ 今後の取り組み・強化策：①新規顧客の開拓、②人材の強化(雇用・育成)、③生産技術・体制の高度化(品質・コスト・納期)(上位3項目)
- ◇ 望まれる支援策：①販路拡大への支援、②同業種交流の推進、②(同率)経営支援策情報の提供、②(同率)人材育成事業の強化(塾・セミナー等)(上位4項目)

【現状に関する意見】

- ◇ 交通の便が良い。
- ◇ 工場周辺の住宅化が進んでいる。

<市長と語る21>

【課題に関する意見】

- ◇ 神明台の工業専用地域の指定については、現状のまま変更しないことを求めたい。
- ◇ イオンタウンの進出による周辺工場の操業環境、交通状況への影響が懸念される。

<羽村地域産業振興懇談会>

【現状に関する意見】

- ◇ 羽村市はものづくり企業への支援策が充実している。
- ◇ 独自技術を持った企業が多いが、小規模零細企業が多く、後継者がいない。
- ◇ 経営者の高齢化が進んでいる。

- ◇ 技術が継承されなくなってきている。
- ◇ 準工業地域、工業地域で、企業が住宅地に変わっている。
- ◇ 空き工場、空き地のミスマッチが生じている。
- ◇ ものづくり企業は、においや騒音で一般市民からの苦情を受けている。
- ◇ 今後、企業の立地・操業環境が問題になってくると考えられる。

<関係団体へのヒアリング>

【現状に関する意見】

- ◇ 工業集積（工業団地）が特徴。
- ◇ 日野自動車関連の下請け企業が集積していない。
- ◇ 後継者問題が切実になっている。
- ◇ 土地が高いので、事業者が増えない。
- ◇ 工場の地方への移転が進んでいる。
- ◇ 撤退・移転により、企業が減少している。
- ◇ これまでは、羽村市の工業団地と言えば有名だったが、企業が減少し、跡地がどうなるのかという問題が生じている。
- ◇ 最近、ものづくりの工場が羽村市に移転してきたという話を聞かない。
- ◇ 空き工場が増えている。
- ◇ 空き地が埋まらない。
- ◇ 工場撤退後、宅地化している。
- ◇ 住民との騒音・臭気トラブルが生じている。
- ◇ 企業連携の動きがあまりない。
- ◇ 圏央道を経由して東北自動車道や関越自動車道、中央自動車道、東名高速道路が結ばれることとなる。短時間での広域移動が可能となり、立地としての強みがある。

【課題に関する意見】

- ◇ 羽村市の根本である工業に力を入れることを求めたい。
- ◇ 企業が操業し続けられる環境を求めたい。
- ◇ 日野自動車の存在が大きい。守っていくことを求めたい。

主な統計データ

事業所数・製造品出荷額等

● 製造業事業所数の推移 ●



資料：東京都「東京の工業」

● 産業分類別事業所数・製造品出荷額等・粗付加価値額 ●

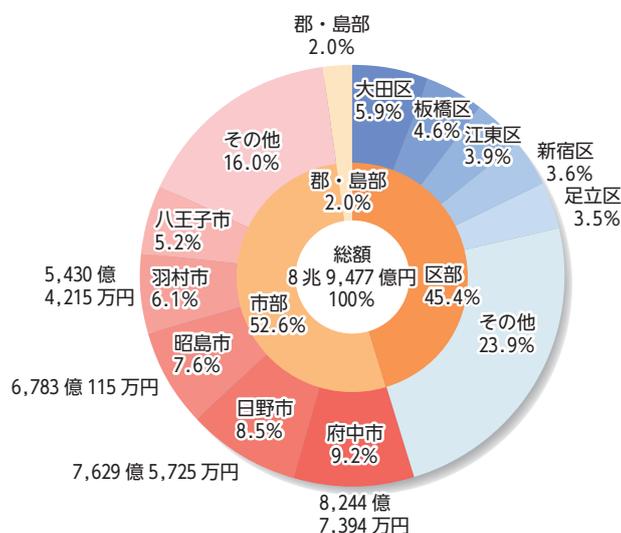
(単位：万円)

産業（中分類）	事業所数	製造品出荷額等	粗付加価値額
食料品製造業	2	x	x
繊維工業	2	x	x
家具・装備品製造業	4	43,813	18,669
パルプ・紙・紙加工品製造業	1	x	x
印刷・同関連業	9	443,127	156,473
化学工業	2	x	x
プラスチック製品製造業	2	x	x
窯業・土石製品製造業	1	x	x
鉄鋼業	4	2,396,215	515,858
非鉄金属製造業	3	93,910	46,611
金属製品製造業	18	150,220	74,411
はん用機械器具製造業	6	1,509,297	629,086
生産用機械器具製造業	16	375,758	165,745
業務用機械器具製造業	6	73,001	46,576
電子部品・デバイス・電子回路製造業	6	272,602	134,594
電気機械器具製造業	10	416,647	141,873
情報通信機械器具製造業	6	1,040,859	298,510
輸送用機械器具製造業	11	45,212,864	13,127,229
その他の製造業	13	1,088,829	510,729
合計	122	54,304,215	16,360,131

資料：東京都「2011東京の工業」

※ x：秘匿数値（該当する事業所数が2以下の場合、秘密保護の関係から、その数値を秘匿している。）

● 区市町村別製造品出荷額等構成比 ●



資料：東京都「2011東京の工業」

● 輸送用機械の製造品出荷額等構成比の比較 ●

(単位：万円、%)

順位	市		事業所数		製造品出荷額等		構成比 B/A
			製造業計	輸送用機械	製造業計 A	輸送用機械 B	
1	愛知県	田原市	82	8	190,250,841	183,439,297	96.4
2	長崎県	西海市	47	17	16,657,221	15,787,214	94.8
3	福岡県	宮若市	57	18	79,482,470	74,304,792	93.5
4	愛知県	豊田市	859	195	1,270,676,608	1,185,086,522	93.3
5	大阪府	池田市	48	6	50,093,996	45,338,732	90.5
6	東京都	羽村市	70	10	67,110,932	58,247,631	86.8
7	三重県	いなべ市	176	26	117,897,302	93,195,454	79.0
8	大分県	中津市	149	16	60,357,484	47,234,892	78.3
9	愛知県	西尾市	626	103	135,069,586	103,076,209	76.3
10	愛知県	高浜市	172	31	46,992,800	35,212,910	74.9
11	三重県	鈴鹿市	302	83	145,905,218	106,928,618	73.3
12	群馬県	太田市	766	97	234,913,099	170,309,902	72.5
13	山口県	防府市	137	14	99,760,453	71,990,272	72.2
14	福島県	相馬市	81	7	15,523,881	10,979,579	70.7
15	愛知県	大府市	318	42	82,533,628	57,499,807	69.7
16	神奈川県	藤沢市	318	33	124,846,325	86,269,447	69.1
17	大阪府	大阪狭山市	51	4	5,964,021	3,973,560	66.6
18	神奈川県	横須賀市	228	54	54,129,541	35,886,093	66.3
19	愛知県	みよし市	183	33	88,963,126	58,797,580	66.1
20	愛知県	刈谷市	382	108	173,885,244	113,971,103	65.5
21	静岡県	湖西市	224	83	167,160,457	106,165,941	63.5
22	埼玉県	狭山市	178	13	86,724,645	53,232,243	61.4
23	愛知県	安城市	500	111	182,393,391	110,693,803	60.7
24	愛知県	碧南市	371	61	78,331,465	46,864,625	59.8
25	愛知県	岡崎市	751	88	161,909,689	93,461,727	57.7
26	埼玉県	上尾市	237	33	35,773,792	20,552,657	57.5
27	岡山県	玉野市	150	34	27,352,327	15,574,766	56.9
28	奈良県	橿原市	155	3	24,432,678	13,519,571	55.3
29	愛知県	豊川市	514	94	82,373,572	44,071,160	53.5
30	広島県	広島市	1,279	69	236,928,777	122,927,661	51.9

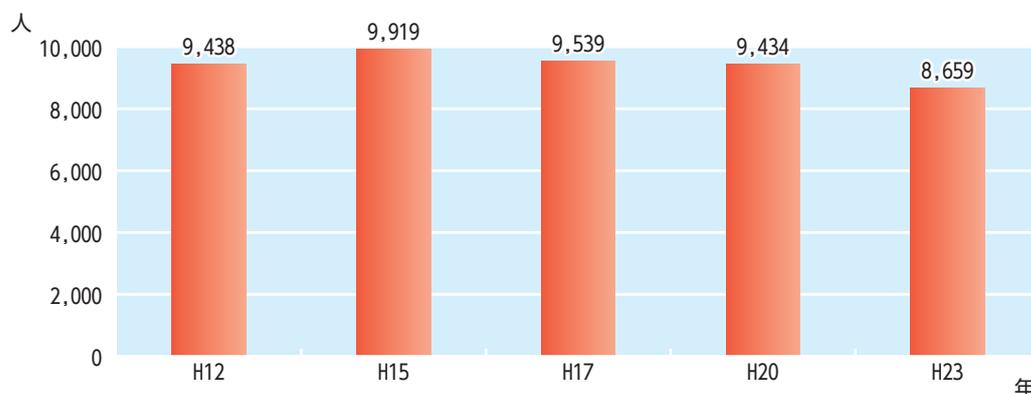
資料：工業統計調査（平成25年）

※従業者4人以上の事業所

※輸送用機械器具製造業の製造品出荷額等が秘匿数値（1又は2の事業所に関する数値で、これをそのまま掲げると個々の報告者の秘密が漏れるおそれがあるため秘匿した箇所であり、3以上の事業所に関する数値であっても、1又は2の事業所の数値が前後の関係から判明する箇所も秘匿としている。）である市、町村は除く。

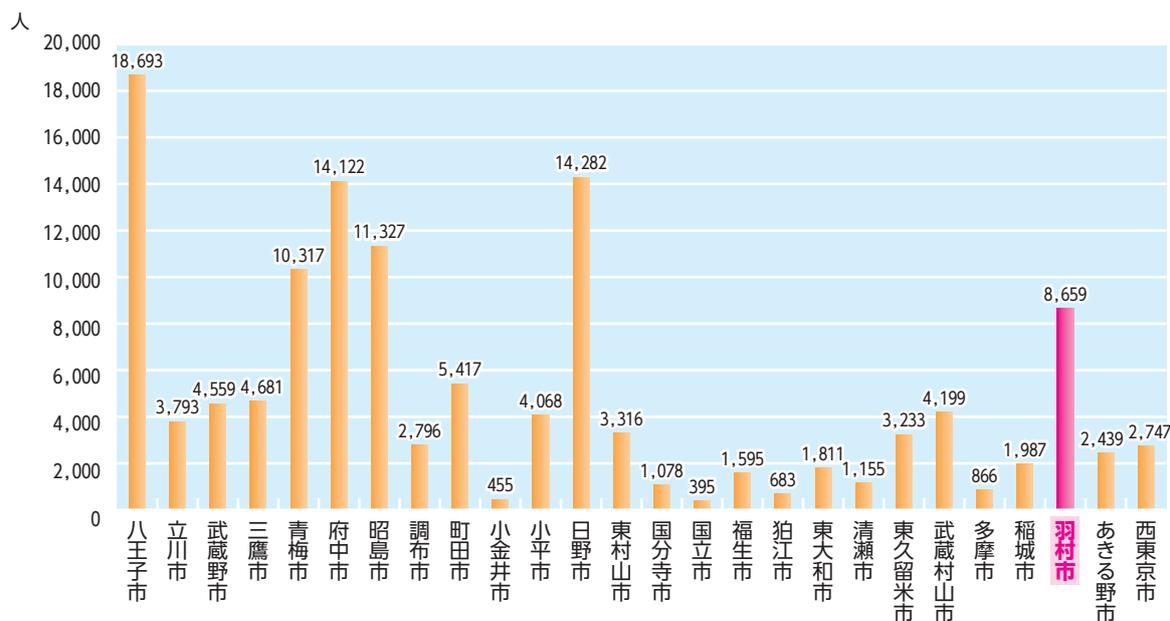
従業者数 >>>>>

● 製造業従業者数の推移 ●



資料：東京都「東京の工業」

● 製造業従業者数の比較 ●



資料：東京都「2011東京の工業」

② 工業の課題

現状認識から、羽村市の工業の課題として、次のようなことが挙げられます。

企業の立地・定着促進

羽村市に立地している企業が定着するような取り組み、また、新たな企業を誘致していくことが必要です。

工業集積の維持・拡大

これまでの羽村市の礎であった工業集積をこれからも維持し、さらに拡大していくことが求められています。

企業の操業環境の維持・向上

企業が今後も羽村市で操業を続けていくため、周辺の操業環境を維持・向上していくことが必要です。

企業の経営基盤・競争力の強化

企業が安定して経営していけるよう、基盤を強化するとともに、競争力を高めていくことが必要です。

人材確保、後継者の育成、技術の継承

企業の存続のため、人材を確保し、育成していくことが必要です。また、技術の継承も求められています。

(2) 商業

① 商業の現状

羽村市の商業は、JR羽村駅・小作駅周辺、市役所通り沿いなどのロードサイドエリアが主な商業集積地となっています。

近年、消費者ニーズの多様化や近隣地域への大型店の出店等により、市内商業を取り巻く環境は厳しさを増しており、事業所数の減少、小売吸引力の低下といった問題も生じています。また、経営者の高齢化も進行しており、後継者のいない個店も多く見られます。

今後、市内への大型店の進出も予定されており、市内商業への影響が懸念されます。

<統計データ>

- ◇ 事業所数・従業者数・年間商品販売額ともに減少が続いている。
 (商業事業所数：H 9年/561事業所→H26年/327事業所 △234事業所 △41.7%)
 (商業年間商品販売額：H 9年/230,354百万円→H26年/90,070百万円 △60.9%)
- ◇ 従業者規模の内訳を見ると市内事業所の約3/4は従業者数が10人未満の小規模事業所。
- ◇ 小売吸引力が低下しており、他地域に買い物客が流出している傾向にある。(H19年/0.87→H26年/0.62 △0.25ポイント 多摩地域26市中12位)

<市内事業所実態調査> (小売業)

- ◇ 羽村市の産業施策に関して期待するもの：①融資等資金対策、②地域社会との交流、②(同率)市場開拓マーケティング支援 (上位3項目)

<商工会アンケート>

- ◇ 回答者の約40%は後継者がいないと回答。
- ◇ 回答者の約47%が直近の売上が5年前と比較して5%以上減少していると回答。
- ◇ 経営上の問題点：①人材の確保が困難、②新規顧客を開拓できない、③客単価の下落 (上位3項目)
- ◇ お客様が貴店・貴社を利用すると思われる理由：①商品・サービスが評価されている、②歴史・信用・口コミがある、③商品・サービスに関する専門知識 (上位3項目)

<市長と語る21>

【課題に関する意見】

- ◇ 大型商業施設との共存支援を求める。
- ◇ 市のマスコットキャラクター「はむりん」を素材に使用した商品開発の支援を求める。
- ◇ 空き店舗の有効活用や創業の支援を求める。
- ◇ 農商工の連携強化が必要であり、支援を求める。
- ◇ 商品券事業等による市内消費の喚起と地域経済の活性化支援を求める。
- ◇ まち・商店会の安全・安心の確保を求める。

<羽村地域産業振興懇談会>

【現状に関する意見】

- ◇ 承継者がいる事業所は少ない。
- ◇ 経営者の高齢化が進んでいる。

【課題に関する意見】

- ◇ 市内の産業のブランド化・差別化を進めるべき。
- ◇ 大型商業施設の進出なども踏まえると、今後の商業は地域に密着し、相互の連携・情報交換を一層強化していくことが必要。

<関係団体へのヒアリング>

【現状に関する意見】

- ◇ 大型商業施設進出により、商店・飲食店への影響が予想される。
- ◇ 大手企業の撤退により顧客の減少が著しい。
- ◇ 新規顧客の獲得が難しい。
- ◇ 空き店舗が空いたままの状態が続いている。
- ◇ 既存店の高齢化が進んでいる。
- ◇ 商店街に滞留する人が少なくなっている。

主な統計データ

商業の状況

● 商業事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移 ●

(単位：人、百万円)

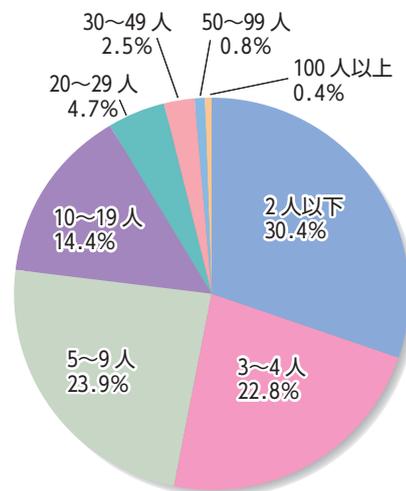
年	合計			卸売業			小売業		
	事業所数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	年間商品販売額
H9	561	4,467	230,354	80	812	155,642	481	3,655	74,712
H14	559	4,604	144,564	86	728	77,957	473	3,876	66,607
H19	473	3,701	125,055	72	523	57,022	401	3,178	68,033
H26	327	2,856	90,070	68	477	48,070	259	2,379	42,000

資料：商業統計調査

● 従業者規模別事業所数構成比 ●

(単位：%)

従業者規模	事業所数	構成比
2人以下	144	30.4
3～4人	108	22.8
5～9人	113	23.9
10～19人	68	14.4
20～29人	22	4.7
30～49人	12	2.5
50～99人	4	0.8
100人以上	2	0.4
総数	473	100.0



資料：東京都「商業統計調査報告」(平成19年)

小売吸引力

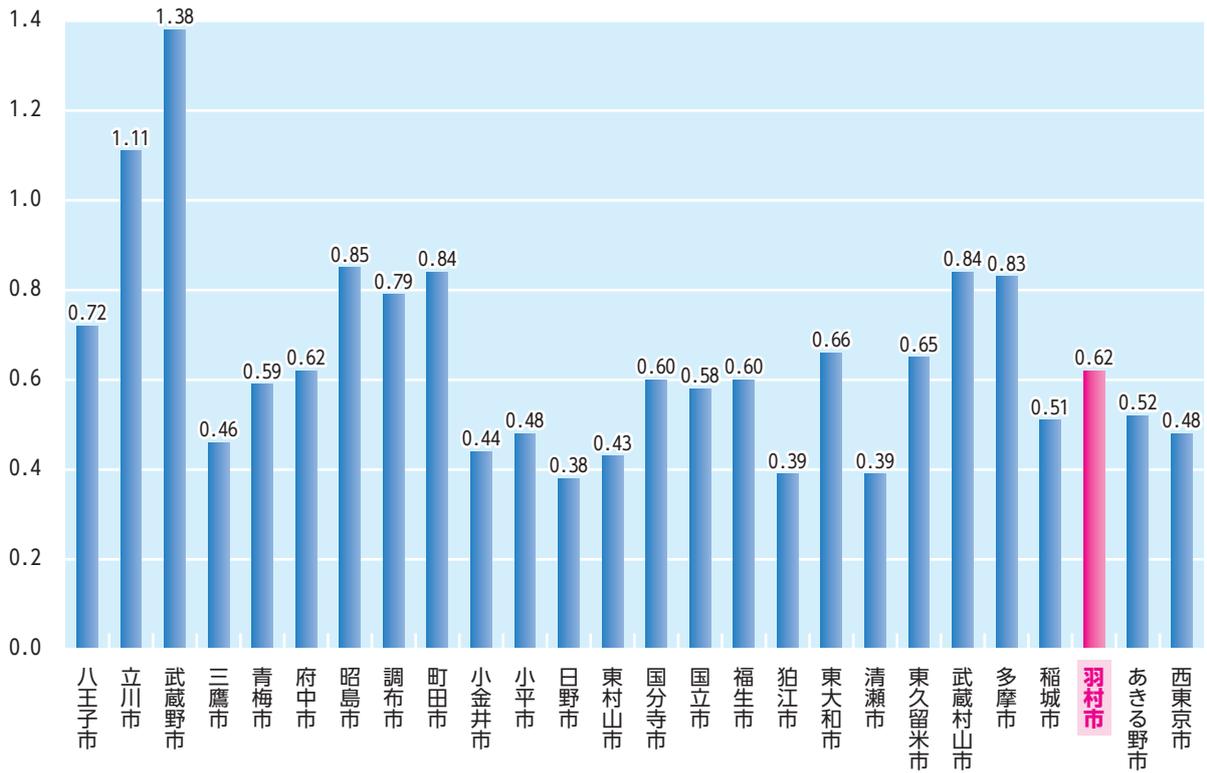
● 小売吸引力 ●

(単位：円)

年	小売吸引力 A / B	一人あたり 年間小売販売額 (羽村市) A	一人あたり 年間小売販売額 (東京都) B
H9	0.89	1,367,500	1,544,133
H14	0.86	1,207,152	1,406,361
H19	0.87	1,221,989	1,400,320
H26	0.62	738,955	1,200,955

資料：商業統計調査、住民基本台帳人口より算出

● 小売吸引力の比較 ●



資料：商業統計調査（平成26年）、住民基本台帳人口より算出

② 商業の課題

現状認識から、羽村市の商業の課題として、次のようなことが挙げられます。

- 個店の売上・魅力向上**

各個店が独自性を発揮し、質の高いサービスや魅力ある商品を提供することが必要です。
- 大型店との共存共栄**

個店と大型店とが連携・協力して、共に発展し、市内で活発に事業を行うことが必要です。
- 商店会の個店集積の維持**

個店が集積し、商店会として維持し続けることが必要です。
- 中心市街地の活性化**

魅力と活力ある中心市街地の形成が求められています。
- 人材確保、後継者の育成、技術の継承**

商業振興のためには、その土台となる人材の確保・育成が必要です。

(3) 農業

①農業の現状

羽村市の農業は都市型農業であり、消費地の中での生産という特性を活かし、生産された農産物は、市場・スーパー等へ出荷されるだけでなく、直売所等を通じて流通しています。羽村市では、平成14年3月に新農産物直売所を設置し、指定管理者制度を導入した運営を行っています。生産者の顔が見える直売所として定着しており、新鮮で安全・安心な地産地消の農産物等が市民に提供されています。

羽村市の農家数・農業就業人口は減少傾向にある上、農業就業者の高齢化が進み、農業生産力の低下や後継者不足の問題に直面しています。また、農地に関しては、都市化の進行や相続に伴う土地の売却、宅地等への利用転換などにより、減少しています。

<統計データ>

- ◇ 市内の農家数は減少傾向が続いている。
(市内総農家数：H2年/203戸→H22年/123戸 △80戸 △39.4%)
(販売農家数：H2年/101戸→H22年/67戸 △34戸 △33.7%)
- ◇ 総農家のうち、販売農家は67戸、54.5%。このうち、経営耕地面積別では67戸中、34戸の農家が0.5ha未満の規模となっている。
- ◇ 市内の経営耕地面積は減少が続いている。
(H2年/78.7ha→H22年/38.8ha △39.9ha △50.7%)
- ◇ 経営耕地面積を用途別に見ると「畑」が30.5ha (78.5%) で最も割合が多い。
(畑：30.5ha・78.5%、樹園地：4.2ha・10.9%、田：4.1ha・10.6%)
- ◇ 市内の農業産出額は約2億円。品目別ではトマトが1位で19%を占めている。特徴的な傾向としてパンジー・ビオラが2位で6%を占めている。(出荷量東京都6位)
- ◇ 農業就業人口は減少傾向が続いている。
(H2年/181人→H22年/120人 △61人 △33.7%)
- ◇ 農業就業人口を年齢別に見ると、70歳代が42人 (35.0%)、次いで80歳以上が23人 (19.2%)、70歳以上の方が就業人口の半数を超えている (54.2%)。平均年齢は65.7歳。
- ◇ 販売農家のうち、後継者のいない農家が21戸 (31.3%)。

<農業に対する意識調査>

- ◇ 農業を続けるうえでの障害と感じている点：①固定資産税、相続税等の問題、②労働力が足りない、③街中で農業がやりにくい(農薬飛散・農機騒音・肥料等の臭いなど) (上位3項目)
- ◇ 羽村市で農業をするメリット：①消費者に近い、②市内に直売所がある、③地産地消の推進 (上位3項目)
- ◇ 水田所有者の80%が今後も水田を保全していきたいと回答。
(保全したい理由として、「自然環境の保全と景観保全のため貴重な財産だから」、「市内唯一のまとまった農地であり、景観が素晴らしい」、「周囲に建物が無く日照が良い。転作で野菜生産が可能」など)
- ◇ 出荷・販売に関して行政に望むこと：①羽村産農産物に関する消費者へのPR、②農産物等を販売し、PRするイベントの開催、③農産物価格が安い際に価格を補てんする制度、③(同率)出荷資材(箱や袋など)への補助 (上位4項目)
- ◇ 出荷・販売に関する今後の意向：①現状維持、②栽培品目の切り替えや新しい品目の導入、③新たな売り先や販売方法などの開拓 (上位3項目)

<市長と語る21>

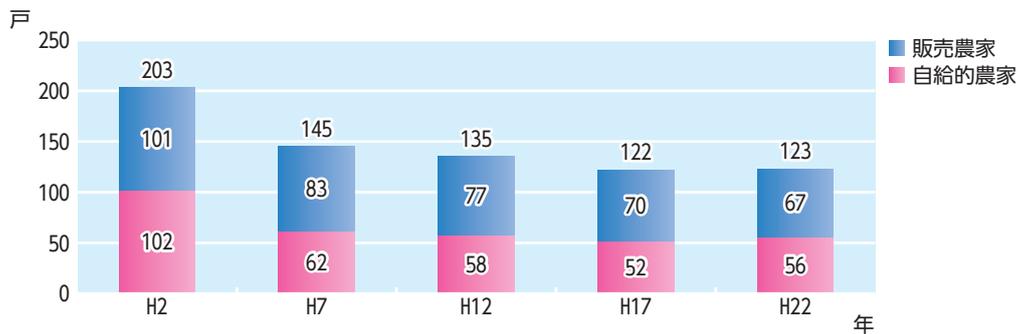
【課題に関する意見】

- ◇ 商業と農業が上手にビジネスマッチングできる機会が必要である。
- ◇ 市内農産物の加工品については未開拓の部分であり、情報提供などの支援を求める。
- ◇ 認定農業者に対して支援を行う補助制度の創設など、農業者の頑張りを高める施策を求める。
- ◇ 後継者の育成支援を求める。

主な統計データ

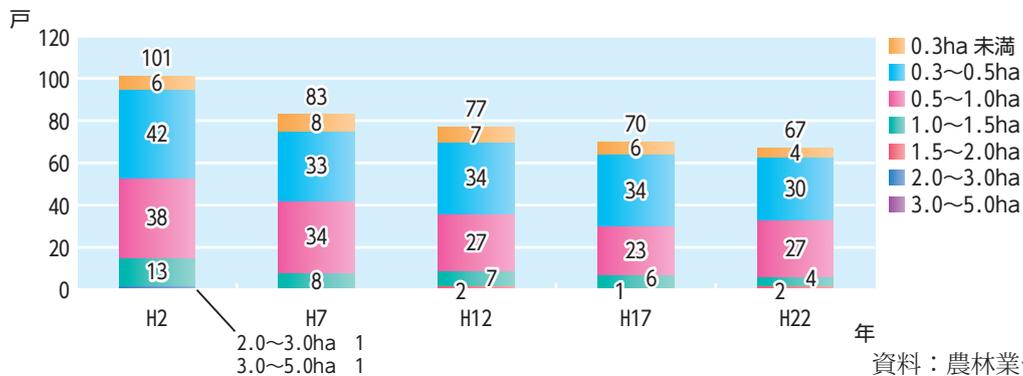
農家数

● 総農家数の推移 ●



資料：農林業センサス

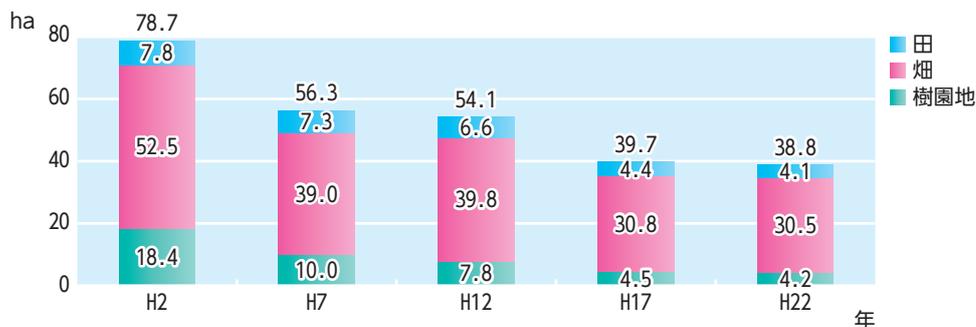
● 経営耕地面積規模別販売農家数の推移 ●



資料：農林業センサス

経営耕地面積

● 用途別経営耕地面積の推移 ●



資料：農林業センサス

農業産出額

● 農業産出額 ●

(単位：千万円)

区分	農業産出額	上位5品目・構成比				
		1位	2位	3位	4位	5位
羽村市	19	トマト 19%	パンジー・ビオラ(苗もの) 6%	なす 6%	ねぎ 5%	きゅうり 4%
西多摩	372	トマト 14%	なす 5%	ばれいしょ 4%	きゅうり 4%	ねぎ 4%
東京都	2,912	トマト 10%	こまつな 8%	日本なし 6%	ほうれんそう 4%	なす 4%

資料：東京都農作物生産状況調査（平成24年産）

※ グラントカバー類を除き掲載

西多摩：青梅市、福生市、あきる野市、羽村市、瑞穂町、日の出町、奥多摩町、檜原村

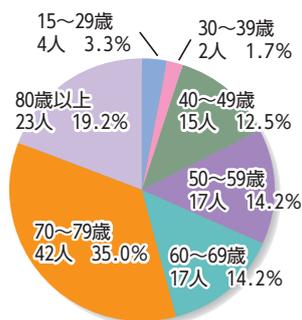
農業就業人口

● 農業就業人口の推移 ●



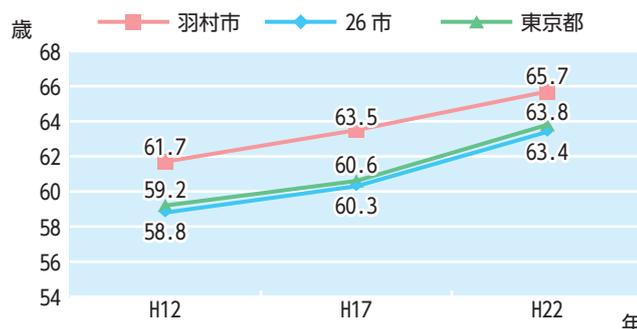
資料：農林業センサス

● 年齢別農業就業人口 ●



資料：2010年農林業センサス

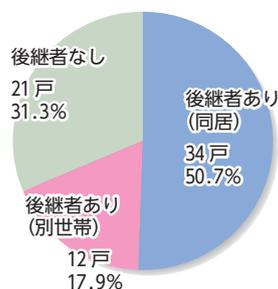
● 農業就業人口平均年齢の推移 ●



資料：農林業センサス

農業後継者

● 農業後継者の有無別農家数 ●



資料：2010年農林業センサス

② 農業の課題

現状認識から、羽村市の農業の課題として、次のようなことが挙げられます。

農業の活性化	今後も市内農業が継続していくため、活性化が求められています。
農地の保全・活用	農地の減少を抑えるため、市内に残された農地を保全し、有効に利用することが必要です。
農業に対する市民理解の促進	市内農業を継続するため、農業、農地の持つ機能などについて、市民の理解を深めることが必要です。
人材確保、後継者の育成、技術の継承	農業の後継者を確保、育成し、新たな農業の担い手を創出することが求められています。また、栽培技術などを継承していくことが必要です。

(4) 観光

①観光の現状

羽村市には、玉川上水、羽村堰、動物公園等の観光資源があり、四季折々に花と水のまつり、はむら夏まつり、産業祭等、様々なイベントが行われ多くの観光客が訪れています。中でも春の「花と水のまつり」は、前期のさくらまつりに始まり、後期のチューリップまつりでは関東最大級、約40万球のチューリップが咲き誇り、こうしたイベントなどを通じて、市全体の観光客数は増加傾向にあります。

しかし、羽村市は、歴史的な名所旧跡や大規模集客施設があるような著名な観光地ではなく、現状では、市内における活発な観光産業は見られず、観光の形態は、日帰り型観光の傾向が強くなっています。

<統計データ>

- ◇ 観光客数は年間78.4万人（H24年）。
- ◇ 観光客数はあきる野市・青梅市・奥多摩町の半分以下。
- ◇ 動物公園入園者数は年間概ね20～25万人で推移。

<商工会アンケート>

【現状に関する意見】

- ◇ 水が良い。
- ◇ 自然環境が良い。
- ◇ 街並みがきれい。
- ◇ イベントが多い。
- ◇ 産業祭に活気がある。
- ◇ 西多摩地区の中心に位置しているのに、外部からイベントなどでお客様を呼び寄せられるような施設がない。
- ◇ 人口が少ない、増えない。
- ◇ 人通りが少ない。
- ◇ 伝統的な文化が少ない。
- ◇ 市としての知名度が低い。

<羽村地域産業振興懇談会>

【現状に関する意見】

- ◇ 花と水のまつり時期以外も一定数の観光客がいる。
- ◇ 多摩川沿いの散策、ランニングが盛んに行われている。
- ◇ 平日夕方の青梅線は、奥多摩へのハイキング帰りのシルバーの方などで座席が埋まっている。

<関係団体へのヒアリング>

【現状に関する意見】

- ◇ 観光資源が少ない。
- ◇ まちに特徴がない。
- ◇ 市としての知名度が低い。
- ◇ PRが不十分ではないか。
- ◇ 羽村市は花、水、緑の街。
- ◇ 花と水のまつりの来場者が増えている。
- ◇ 夏まつりはブースも多く、パワーを感じる。
- ◇ 羽村には川、山があり、ハイキング、ジョギング客が来ている。
- ◇ お年寄りのハイキングが増えている。

- ◇ 羽村は多摩川サイクリングロードの終点だが、自転車の休憩場所、施設がない。
- ◇ 年間を通じて集客できる施設がない。
- ◇ 施設、イベントの駐車場が不足している、整備が不十分ではないか。
- ◇ 他所にはない動物公園、羽村の堰があるのにお金をかけていないと思う。
- ◇ 人も地域資源だと思うが、市内の芸術家を発掘していない。

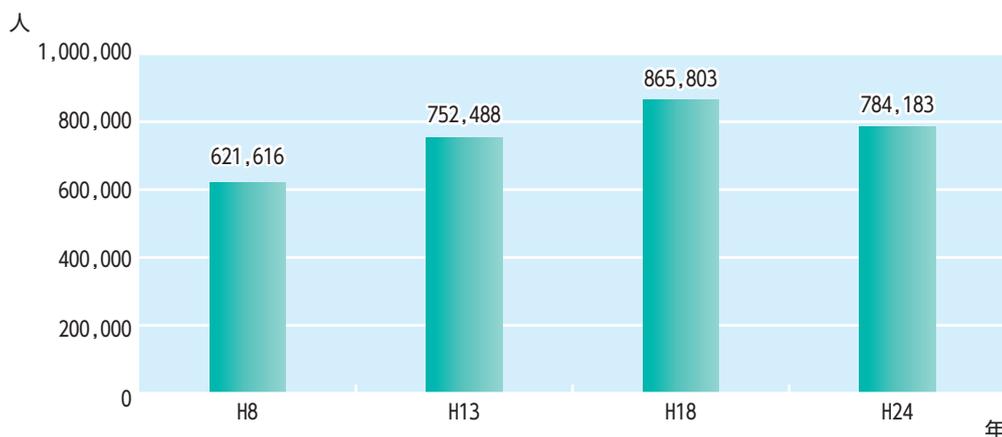
【課題に関する意見】

- ◇ 観光資源を有効活用すれば、もっと羽村への来訪者を増やせるのではないか。
- ◇ ガイド、案内するということも必要。きちんとガイドをすると、観光客は満足して帰っていく。
- ◇ 知名度を上げるためには観光案内所が必要。
- ◇ 観光協会事務局が2人しかいない。もう少し動ける方が必要。理事・協力員にもっと若い力が欲しい。
- ◇ 観光には専門的知識のある人が必要。

主な統計データ

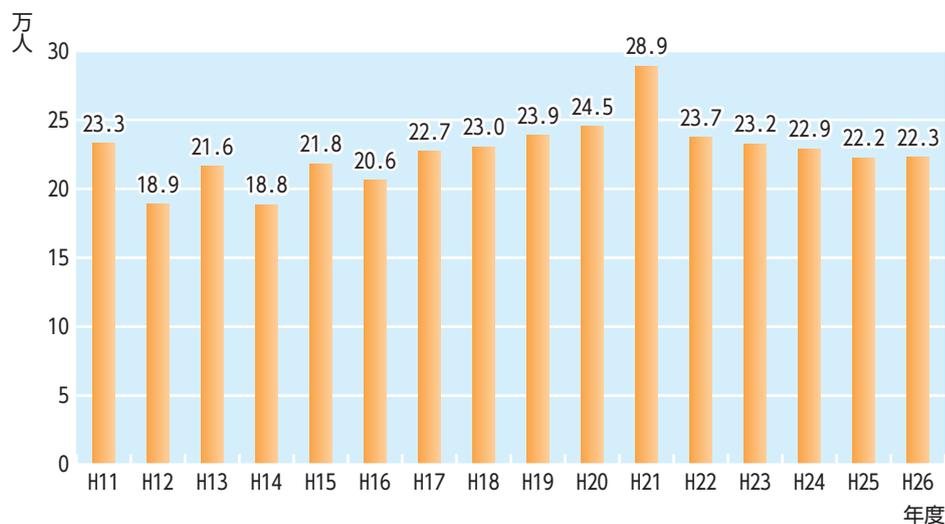
観光客数

●観光客数の推移●



資料：西多摩地域広域行政圏協議会「西多摩地域観光入込客調査」

●動物公園入園者数の推移●



●西多摩地域観光客数の比較●



資料：西多摩地域広域行政圏協議会「西多摩地域観光入込客調査」平成24年

②観光の課題

現状認識から、羽村市の観光の課題として、次のようなことが挙げられます。

